

平成5年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書

精神薄弱福祉

平成6年3月

国際協力事業団
東京国際研修センター

平成5年度 帰国研修員フォローアップチーム報告書

精神薄弱福祉

平成6年3月

国際協力事業団

JICA
120
216
714
LIBRARY

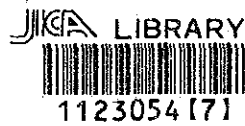
東国セ

JR

94-004

平成5年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書

精神薄弱福祉



平成6年3月

国際協力事業団
東京国際研修センター



序

途上国の技術者に対する研修の実施に携わる者にとって、現地に赴き、帰国した研修員がどのように研修成果を日々の業務に活用しているかを知ることは、より有益で効果的研修プログラムを組む上で必要不可欠なことである。

障害者をめぐる諸問題は国家の福祉政策の重要な課題であり、中でも障害者の中で大きな割合を占める発達障害を持つ人々に対する施策は途上国では遅れがちである。

この分野でアジア地域でもとりわけ豊かな経験とノウハウを持つわが国に対する途上国の期待は大きいものがある。その気概の片鱗はこの報告書からも伺うことができる。

今回の調査団はスリ・ランカ、パキスタン及びタイの3カ国で、帰国研修員に面会するほか、各種施設見学を行い、現地の状況の把握に勤めた。

この報告書が、将来において研修プログラムを組む際の一指針となり、研修の質向上に役立つならばこれ以上の喜びはない。

今回の公開技術セミナー開催に当たっては、外務省、厚生省、社団法人日本精神薄弱者福祉連盟、在外公館、JICA帰国研修員同窓会ならびに各国関係機関、関連施設それぞれの専門家、担当者から惜しみないご協力を頂いた。末筆ながら関係各位に心から御礼申し上げる。

平成6年3月

国際協力事業団
東京国際研修センター
所長 田口 定則

スリ・ランカ



社会サービス局にての協議



国立教育研究所にて

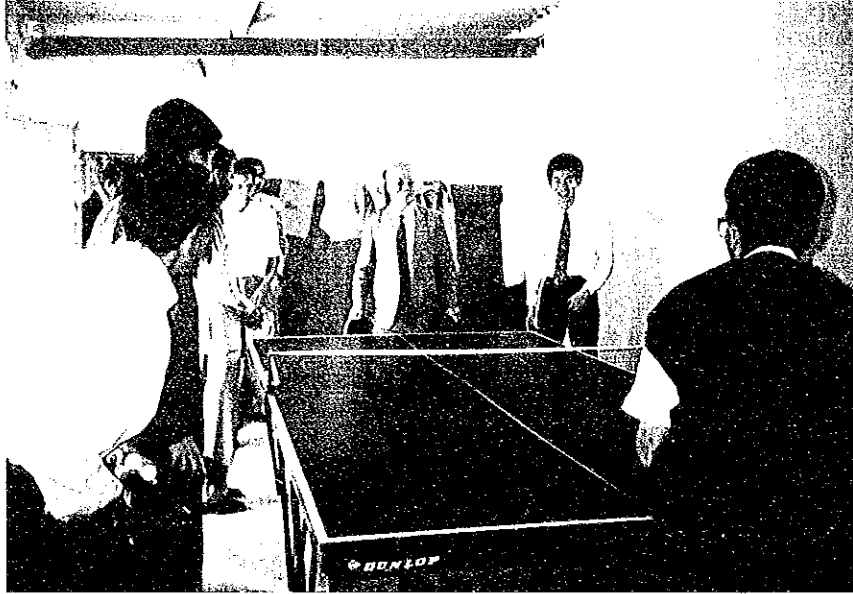
スリ・ランカ(2)



(上下とも)ガンパハの精薄児リハビリテーションセンターにて



パキスタン



Karachi Vocational Training Centerで
精神遅滞の卓球選手と試合



National Training Center for
Disabled Personsの前で

パキスタン(2)



椅子を作った青年と
(National Training Center for Disable Personsにて)



社会福祉局にての協議

タイ

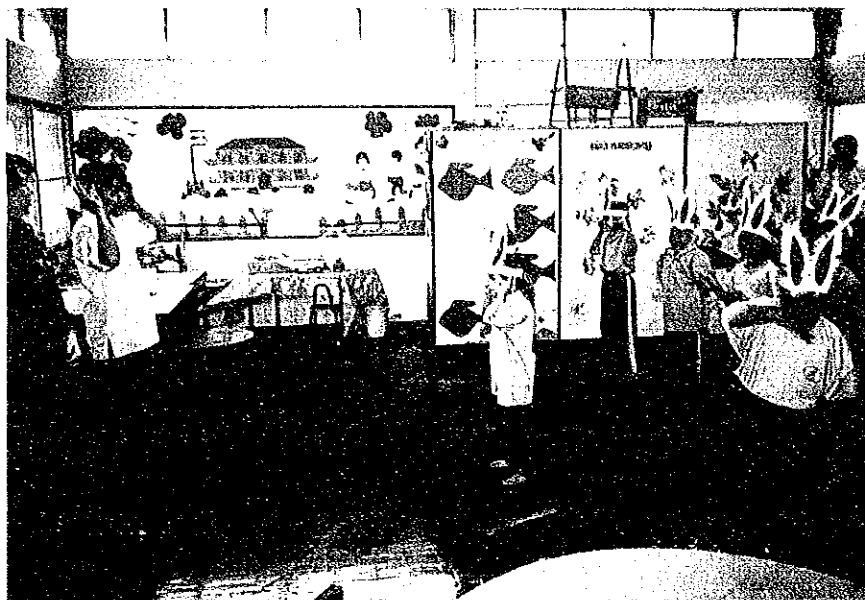


バンブーン職業訓練センターにて



ラジャヌクル・センターの学校にて

タイ(2)



Punyawuthikom学校にて



帰国研修員との昼食会

目 次

序
写真

1. 派遣目的	1
2. 派遣期間	1
3. 団員構成	1
4. 調査日程	1
5. 主要面談者	2
5-1. スリ・ランカ	2
5-2. パキスタン	3
5-3. タイ	5
6. 各国概要	5
6-1. スリ・ランカ	5
6-2. パキスタン	8
6-3. タイ	12
7. 帰国研修員の印象	16
8. 精神薄弱福祉コースの今後	17
9. 今後のアジア地域の障害者援助	19
資料	23
帰国研修員リスト	
Summary Report	

平成5年度
精神薄弱福祉コース帰国研修員フォローアップ調査団

1. 派遣目的

精神薄弱福祉コース帰国研修員の帰国後の業務における日本出の研修の適用性、有効性を調査し、同コースの今後の計画・運営の参考にするとともに、スリ・ランカ、パキスタン、タイにおける障害者福祉分野の現況、さらには当該分野における人材育成の状況を確認する。

2. 派遣期間

平成6年2月7日～平成6年2月24日（18日間）

3. 団員構成

- | | | |
|-----------|-------|---------------------------------|
| (1) 山口 薫 | 団長・総括 | 社団法人日本精神薄弱者福祉連盟会長 |
| (2) 渡辺 勸持 | 評価・調査 | 愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所
社会福祉学部長 |
| (3) 穂積 武寛 | 企画・調整 | 東京国際研修センター 研修第1課 |

4. 調査日程

- | | |
|-----|--|
| 2/7 | 東京発 コロンボ着 |
| 2/8 | JICA事務所訪問、打ち合わせ
大蔵省対外資源局表敬訪問
在スリ・ランカ日本大使館表敬訪問
再建・リハビリ・社会福祉省表敬訪問 |
| 2/9 | 社会サービス局訪問
国立教育研究所訪問 |

- 精薄児リハビリテーションセンター（ガンパハ）視察
- 2/10 コロンボ発 カラチ着
- 2/11 カラチ発 イスラマバード着
- 2/13 JICA事務所訪問、打ち合わせ
在パキスタン日本大使館表敬訪問
財政・経済省経済局表敬訪問
保健省表敬訪問
社会福祉局訪問
- 2/14 チャンバリ精薄児施設視察
国立精薄児養護学校視察
イスラマバード発 カラチ着
- 2/15 精薄児職業訓練学校視察
重度精薄児入所施設見学
- 2/16 カラチ発 イスラマバード着
- 2/17 国立職業リハビリテーションセンター視察
- 2/19 イスラマバード発 バンコク着
- 2/21 JICA事務所訪問、打ち合わせ
ラジャハット教員養成学校訪問
- 2/22 ラジャヌクル病院訪問
バンブーン・センター訪問
- 2/23 プンヤウティコーン養護学校訪問
技術経済協力局表敬訪問
- 2/24 バンコク発 東京着

5. 主要面談者

5-1. スリ・ランカ

- (1) Department of External Resources, Ministry of Finance
Mr. B. H. Passaperuma Deputy Director
- (2) Ministry of Reconstruction, Rehabilitation & Social Welfare
Mr. Christie Silva Secretary and Commissioner
General of Essential Services
Mr. N.A.H.W. Mendis Senior Assistant Secretary
- (3) Department of Social Services

- | | |
|------------------------|---|
| Mr. M. W. Kuruppu | Superintendent,
Vocational Training Centre for the
Disabled, Ketawala, Leula, Ampitiya
(Ex-participant, '80) |
| Mr. D. Piyadasa | Social Services Officer
North Western Provincial Council
(Ex-participant, '84) |
| Ms. W. Y. Chitranganie | Assistant Director Social Services
(Ex-participant, '88) |
| Ms. D. Liyanagama | Social Services Officer
(Ex-participant, '90) |
- (4) Ministry of Education and Higher Education
- | | |
|---------------------|--|
| Mr. D.S. Mettananda | Director of Education, Sri Lanka
Education Administrative Service |
|---------------------|--|
- (5) National Institute of Education
- | | |
|------------------------------|--|
| Dr. T. Kariyawasam | Director General |
| Mr. B.L. Rajapakse | Director |
| Ms. P.H.J. Nandanie De Silva | Chief Project Officer
(Ex-participant, '87) |
| Mr. K.A. Nimal Karunathilake | Specialist Teacher
(Ex-participant, '91) |
- (6) Rehabilitation Centre for the Mentally Retarded
- | | |
|---------------------|----------------|
| Mr. A. W. Senaratne | Superintendent |
|---------------------|----------------|

5-2. パキスタン

- (1) Economic Affairs Division
- | | |
|--------------------|------------------|
| Mr. Shalid Humayun | Deputy Secretary |
|--------------------|------------------|
- (2) Ministry of Health
- | | |
|---------------------|----------------------------|
| Dr. Fazal-ur-Rehman | Assistant Director General |
|---------------------|----------------------------|
- (3) Ministry of Special Education and Social Welfare
- | | |
|--------------------------|---|
| Mr. S.M. Hasan | Additional Secretary/
Director General |
| Mr. Mumtaz Hussain Malik | Director (HIC), DGSE |

- (4) National Council of Social Welfare (NCSW)
- Mr. Syed Izhar Hussain Secretary/Director
(Ex-participant, '87)
- Mr. Syed M.A. Hashmi Deputy Director
- (5) Sindh Provincial Government
- Ms. Taiyaba Rizvi Director Social Welfare
- Ms. Raheela Tiwana Advisor to Chief Minister
for Social Welfare
- Ms. Sophia Shahabuddin Abro Press Secretary
- Dr. Kamil Rajper Director School Health Service
- Dr. Talib Lashari RMO-IQ Neuro Psychiatric Centre
- (6) Chambali Institute for Mentally Handicapped Children(Rawalpindi)
- Ms. Nuzhat Jalil Administrator
- (7) Fatima Jinnah Special Education Centre (Islamabad)
for Mentally Handicapped Children
- Ms. Asia Mughal Principal
- (8) Ibne-Sina Special Education Centre (Islamabad)
- Ms. Fouzia Niyyar Vice Principal
- (9) Rahat Ghar (Islamabad)
- Dr. Muhammad Aslam Khaki Chairman, Insaaf Welfare Trust
- (10) National Training Centre for Disabled Persons (NTCDP, Islamabad)
- Ms. Farkhunda K. Hussain Deputy Director
- Ms. Noshaba Bibi Job Placement Officer
- (11) Karachi Vocational Training Centre (KVTC, Karachi)
- Dr. Inam Ur Rahman Khan
- Ms. Robina Inam
- (12) Rehabilitation Centre for Multipply Handicapped Children
(RCMHC, Karachi)
- Ms. Rehana Bagai Assistant Director

(13) Ex-participant

Mr. Qazi Irshad Ahmed Head, Department of Psychiatry
Dow Medical College ('90)

5-3. タイ

(1) Department of Technical and Economic Cooperation

Mr. Nipon Sirivat Chief of Japan Sub-Division,
External Cooperation Division I

Ms. Jitkasem Tantasiri Chief of Training Analysis Sub-
Division, Division of Planning

(2) Institute of Mental Health

Dr. Surajit Suvanashiep Chief Medical Officer

(3) Rajanukul Hospital

Dr. Kalaya Sutrabutr Deputy Director

Ms. Kullaya Koswan (Ex-participant, '86-'87)

Ms. Sriwanphen Chinawongse (Ex-participant, '88)

Ms. Puttiporn Phurisat (Ex-participant, '90)

Ms. Panida Ratanapairoj (Ex-participant, '93)

(4) Rajabhat Institute Suandasit

Dr. Thong Runchareon Rector

Ms. Suwimon Udom-Piriyasak (Ex-participant, '87)

(5) Punyawuthikorn School

Dr. Kanchana Kosolpisitkul Director

(6) Bangpoon Center

Mr. Samrit Dangponetong (Ex-participant, '82-'83)

6. 各国概要

6-1. スリ・ランカ

人口1741万人（1992年）。人口密度は235人/km²（日本は324人）民族、シンハラ人74%、タミル人18%、ムーア人7.5%。言語はシンハラ語、タミル語、英語を用いる。シン

ハラ人の大多数は仏教であり、タミル人はヒンドゥー教である。人口は都市部に16%、農村部に72%、プランテーションに12%。一人当たりのGNPは524ドル（1991）である。識字率は男性93%、女性84%（1990年）と高い。1991年-1992年の人口増加率は1.6%である。乳児死亡率は34人/千人（日本は5人）。義務教育は6歳より5年間の初等教育であり、小学校は9581校（内私立37校）生徒数345万人、就学率は100%である。

教育費、医療費は無償である。

6-1-1. 障害者の全体的統計

Ministry of Reconstruction, Rehabilitation and Social Welfare による Policy Guidelines for the Disabled of Sri Lanka（によれば、人口の10%が障害者であり、その内の7%が社会サービスが必要である、と述べている。

1992年のカントリーレポートによれば、10.6%の370万人が障害者であり、精神遅滞者はその内の2.3%（85,100人）という推定を紹介している。

Ministry of Education and Cultural Affairs からのフォローアップチームへの回答によれば、1992年の学校調査によれば、学校に通学している児童の内44,014人の障害児がおり、その内36%の15,987人が精神遅滞児である。

6-1-2. 障害者の教育・福祉行政

教育については、文部省が管轄し、福祉については Ministry of Reconstruction, Rehabilitation & Social Welfare（組織については図1参照）が担当している。後者は1992年に A National Action Plan を発表し、近年の国連の勧告等を考慮した障害者の完全参加、C B Rによる地域生活への援助等の基本理念の後に、障害の予防と早期対応、学校教育、就労援助、研究、社会リハビリテーションにいたるまで政府の方針が明確にされている。

6-1-3. 障害者の教育、福祉サービスの過去と現状

(1) これまでのサービス

1968年文部省内に特殊教育課がおかれる。1970年代後半より英国、1980年代初頭にスウェーデンより特殊教育の専門家を招聘し1986年には75の特殊学級ができています。1986年に教員養成大学で教職5年以上の先生に対し、2年コースの特殊教育教員養成コースをつくった。一方、民間団体では、1981年に Sumaga Training Center（作業所）ができています。

(2) 現状

1994年現在、精神遅滞児の学校は、政府の運営によるものが1校、政府の援助による民間の学校が5校ある。

1990年のカントリー・レポートによれば、精神遅滞者は4万人と推定され、現在サービスを受けている人は、入所施設22カ所、作業・授産施設 3カ所、他障害と一緒に

いる入所施設14カ所（学校を含む）に計3000人、特殊学級に300人とのことである。1993年には、136の特殊学級で、998人の児童が教育を受けている報告がある。入所施設では、一人300ルピーの政府よりの援助がある。

特殊学級数は、徐々に増えており、現在では160の学級が普通学校におかれている。

(イ) 民間の障害者施設

政府から得た資料によれば、現在障害者の関係の施設は以下の通りであった。

県	地区	施設数 (精神遅滞に関係すると思われる施設)
西部県	コロンボ	23 (8)
	Gampaha	13 (4)
	Kaluthara	4 (3)
南部県	Galle	5 (3)
	Matara	2 (1)
	Hambantona	5 (2)
中央県	Kandy	7 (3)
	Matele	1
	Nuwara	1 (1)
北西県	Kurunegala	6
	Puttalam	2
カバラガムワ県	Kegalle	3 (1)
	Rathnapura	2
北中央県	Anuradhapura	2 (1)
UVA県	Badulla	1
	Monaragala	1 (1)
北東県	Ampara	1
	Kilinochchi	1
	Jaffna	1
合計		81 (28)

これらの施設の内、精神遅滞者に関係あると思われるもので入所者数が記入されていたものは、12施設であり、10人台が3施設、30人～52人までが6施設、85人～90人までが2施設、130人が1施設である。

6-1-4. 訪問による実態調査

(1) Rehabilitation Center for Mentally Retarded Boys

Wathrugama 地区にある Department of Social Welfare が運営している16歳以上の成人の入所施設である。設立は1981年に26人の定員からスタートした。現在、入所者はスリランカ全土からきた48人（内、15名は親が死亡している）。職員は、7人の施設長、指導員、8人の介護助手と他の調理関係等11人の総勢26人である。職員の勤務は3交代制で10時より6時の夜間勤務は一人である。中間の作業は野菜（山芋等）、果物（ココナッツ等）や花の栽培、封筒作り、ほうき作り等を行っており、作業が困難な重度の障害のグループもある。作業は熱心に行われていたが、休憩時間に音楽に合わせて一人の入所者が太鼓を打ちつつ7、8人で楽しく踊る様子が明るく印象的であった。30家族が入所を待機している。

政府の予算だけでは十分でないので、職員、入所者の親、近所の人々でボランティアの運営委員会をつくり寄付等の活動を行っている。

6-1-5. 現状の問題と今後の課題

(1) A National Plan の実現に向けて

Ministry of Reconstruction, Rehabilitation & Social Welfare が出した A National Plan は、政策として充実しており、これに基づいて計画が一層促進することを期待したい。

(2) 農山村部のサービスについて — C B R 計画の展開 —

現在、Ministry of Education and Cultural Affairs では、農山村部の30地区において C B R 計画を実験的に実施しており、その報告には23項目に及ぶ今後の勧告がでていいる。今回は、実際の現地訪問が適わなかったために現状は不明であるが、報告によればかなり細かなプログラムが組まれており今後の展開が期待される。

(3) 民間によるサービス

民間団体の活動の内、政府が把握したものはすでに記したが、The Ceylon Association for the Mentally Retarded の会長である Ms. Welikala によれば50施設が協会に参加しており、これらの活動は相当に大きな活動を行っていることが予想される。これらの民間団体と政府機関との連携が今後期待される。

6-2. パキスタン

人口1億2165万人（1992年）、97%がイスラム教徒である。パンジャブ、スインド、北西辺境、バローチスターンの4州にわかれ、大都市に約3割が住む。1991年—1992年の人口増加率は約3.5%と高く、年少従属人口係数（年少従属人口0—14歳/独立人口）も91と非常に高い。一人あたりのGNPは400ドル（1991年）である。成人の識字率は35%（1990年）。国の予算の37.5%が国防費にあてられている。

教育は、初等教育（5歳－10歳）の就学率は、37%（1990年）である。乳幼児死亡率は、人口1000人あたり109人（1990年）である。

6-2-1. 障害者の全体的統計

1981年WHOは、障害者人口を10%と推定し、その内の30%を精神遅滞と推定した。1986年のThe National Policy for Special Educationによれば、4-19才の児童の内、10%にあたる児童、460万人が障害児の教育が必要であり、その内約8割の370万人の児童は軽度障害であるため普通学校で統合したサービスをうけ、残りの90万人には特殊学校での教育が必要と述べている。

精神遅滞をもつ児童が、3割とすると、普通学校でサービスを受ける児童は、111万人、特殊学校でのサービスを受ける児童が27万人という推定になる。

また、WHOの調査によれば、精神遅滞者の生起率は、都市を1とすると農産村部では2.5倍となっている。

6-2-2. 障害者の教育・福祉行政

障害者の教育、福祉は社会福祉特殊教育省（Ministry of Social Welfare and Education）が担当している。

特殊教育の分野は、文部省に属していた時代もあったが、より充実するために分化した。

国は、障害者の基本的な施策として、1985年にThe National Policy for Special Education（1988年改訂）、また就労を促進するためにDisabled Persons（Employment and Rehabilitation）Ordinanceを発令し、後者では非雇用者100人以上の企業に1%の障害者雇用率を定めている。

障害者のサービスは、政府が直接設立運営しているものに加えて、州が独自に進めているものと非政府団体がすすめているものがある。社会福祉全般にわたる非政府団体の機関としてNational Council on Social Welfareがある。

6-2-3. 障害者の教育、福祉の過去と現況

(1) これまでのサービス

1947年に盲聾児の学校が設立され、精神遅滞児の学校は、1961年に始まった。1947年に3校であった障害児の学校は、1980年には66校となった。1987年までのこれらの学校は県の独自の運営によるもの、あるいは非政府団体が行っているものであるが、1988年、Zia ul Haq大統領の時期に一挙に48の国の学校が設立され、総数158になった。

(2) 現況

現在の精神遅滞者の施設の内、公立（国立または県立）の施設は、現在一部が活動しているものも含めて、以下の通りである。

a. 精神遅滞児だけの学校	31カ所
b. 精神遅滞の学級と他の障害の 学級が混在している学校	29カ所
c. 診断、評価、相談、リハビリテーション 、職業訓練などの機能をもつセンター	29カ所
d. 入所施設	12カ所

その他、非政府団体が行っている精神遅滞児の施設が29カ所ある。

各学校の生徒数については、資料を得られなかったが、シンド州のb. 精神遅滞の学級と他の障害の学級が混在している学校11校の資料では、学校の生徒数は最も少ない学校で20人、もっとも多い学校で92人、平均39人であった。

6-2-4. 訪問による実態調査

調査団は、上記の施設の内、a. 精神遅滞児だけの学校について、国立および非政府団体によるもの各1校 b. 精神遅滞の学級と他の障害の学級が混在している学校について、州立のもの1校、c. 診断、評価、相談、リハビリテーション、職業訓練などの機能をもつセンターについて国立および非政府団体によるもの各1校、d. 入所施設について非政府団体一施設を見学した。

a. 精神遅滞児だけの学校

(1) Chambelli Institute for the Mentally Handicapped Children

住宅街に庭の明るい感じの二階建ての学校である。6-13歳の年少児の学級と14-16歳の年長者の学級が各2学級あり、それぞれの学級に教師と介護者がつく。全員で15人の職員が働いている。年少者の学級では手作りの教材が多いのが目についた。年長者の学級では職業訓練を中心に行っている。政府が25%の補助をだし、残額を団体の寄金活動が集めている。現在待機者15家族。

(2) 国立の学校。一階は Fatima Jinnah Special Education Center for Mental Retardation、二階は Ibene-Sina Special Education Center for Mental Retardation である。

学校は、一階、二階で名称が異っているが実際は全体で一つの運営をしている。診断、評価、リハビリテーションなどを行う予定の建物が学校に隣接して工事中であり、二年後に完成すると、National Center for Mental Retardation になる。

各学級では、買い物指導、時計の読み方など日本の学校風景と比較的似た授業風景が見られた。

専任の医師、言語治療士、サイコロジストなどがスタッフの中にいる。医師は、健康や治療の指導を行い、6-7人が抗けいれん剤を服用しているとのことであった。言語治療

士は、ストローやピンポン玉を用いた呼吸の訓練等を実施していた。サイコロジストは行動療法による問題行動を持つ児童への対応を行っている、とのことであった。

b. 精神遅滞の学級と他の障害の学級が混在している学校

(1) Rehabilitation Center for Multiply Handicapped Children

スインド州立の5-12歳までの盲、聾、精神薄弱、身体障害をもつ児童の学校である。名前から重複障害児の学校ではなく、障害別の学級がいくつかある学校である。児童の定員は、34人であるが、現在盲の学級がないために27人の児童が6学級に分かれて在籍している。直接教育にあたるのは3人の教師と3人の職業指導の指導員である。

年少児の学級では算数や国語の授業が行われていたが、9歳頃から本格的な織物、縫製、刺繍、木工などの職業指導が行われていた。

c. 診断、評価、相談、リハビリテーション、職業訓練などの機能をもつセンター

(2) 非政府団体によるもの：Karachi Vocational Training Center for the Mentally

Handicapped

精神遅滞者のための職業訓練校である。3年前に設立。52人の訓練生に対し、24人の教師、職業指導員を含め、総勢34人の職員が働いている。

入所する時に、10日間の観察期間を設け、その間に職業能力、適応行動、社会性などの調査を行う。仕事への態度、社会性の発達、読み書き、算数などの職業前訓練の時期を経て、職業訓練を行う。木型による布への印刷、木工、刺繍、縫製などのコースがあり、それぞれ4-6人の訓練生に一人の指導員がつく。

この3年間ですでに14名が就労し、現在就労間近な訓練生が4名いる。6名が地域の企業で実習をしている。地域とは行事などによって交流を深めている。

待機家族は家族であり、週2回の家族訪問プログラムを実施している。

政府からの援助は受けていない。

(3) 国立によるもの：National Training Center for Disabled Persons

1988年に設立された盲、聾、肢体不自由、精神遅滞を含む各種の障害者の職業訓練センターである。

国立では唯一のものである。訓練は、コンピューター（英文ワープロ：ワードスターや表計算：ロータス123）、機械操作、針金によるハンガー、椅子等の作成、などである。

研修生は全国から来ており、寄宿舍がないために親類の家等に宿泊し、6カ月から1-2年の訓練を受けている。過去3年間に46人が企業就労をしている。精神遅滞者は電気屋の修理工や店の手伝いがある。

d. 入所施設：Rahat Ghar

普通の住宅地域に一般家屋を借りて民間団体が運営している。定員35名、内10数名は身体障害と知的障害を併せ持ついわゆる重症心身障害児である。介護員にボランティアが援助している。

重度の障害を持つ児童が多いが、清潔で雰囲気も明るく、我々が訪問するやいなや、「どんなに障害の重い子でも人には反応するものですね」といいながら、一人一人の子どもに、微笑みや手足の反応によるやりとりをみせて紹介してくれた。

設立の動機は、中心となって進めてきた人の身内に、重症心身障害児がおり、この子ども達がサービスを受けられない現状を知って知人とともに設立運動を開始した、ということであった。政府からの補助は現在はない。

6-2-5. 現状の問題と今後の課題

(1) 政策の実現とサービスの拡大

1985年の The National Policy for Special Education (1988年改訂) 及び1981年の Disabled Persons (Employment and Rehabilitation) Ordinance は、障害者の予防、早期教育、学校教育、職業訓練、就労等についての政府の基本的な理念と今後の方向を明らかにしている。これらは、国連が進めている社会参加あるいはノーマリゼーションの理念を取り入れた優れたものである。

また、我々が訪問した職業教育センターでは、地域の中での就労を進めたり、家庭訪問を行ったり、これらの勧告にあった活動を実際に進めている施設を見ることができた。

しかしながら、パキスタンの総人口とそこでの障害をもった人々の数を考えるとこれらのサービスを受けている人の数は本当に僅少であり、今後国家予算が教育、福祉に向けられる時代の来ることを願わずにはいられない。

(2) 民間団体と公立(国、州)施設の連携について

パキスタンでの社会福祉に関わっている民間団体 (Voluntary Social Welfare Agencies) の数は9000に及んでいる。また、民間団体および州立の障害者施設は214である。

精神遅滞の分野でも、35の非政府団体による施設が運営されている。我々の訪問した民間の施設はいずれも非常に活発な活動を行っていた。これらの非政府団体の活動は、国家予算の特殊教育・福祉面への割当が伸び悩んでいる現状では今後多いに期待される。

6-3. タイ

人口5776万人(1992年)。大都市バンコクに562万人(1991年)が暮らす。近年の経済成長はめざましく、1980年後半には10%以上の成長を続け、国民一人当たりのGNPも1986年の776ドルから1991年には1580USドル(日本26,920ドル)となっている。産業は、農

業がいぜんとして強く、農村部での関係が問題となっている。都市部における中間層も増大し、大学生の年間在籍数は1973年から1988年の間に11万人から68万人へと6倍となっている。初等教育の就学率は85%、識字率は93%（1990年）である。

6-3-1. 障害者の全体的統計

1986-1987年のラジャヌクル病院の調査によると、5地区の65,629人の調査からの推定で、タイの中央部0.4%、東部0.26%、北部0.34%、東北部0.53%、南部0.34%の発生率となっている。

6-3-2. 障害者の教育・福祉行政

厚生省下に精神遅滞者サービスのセンターともいべきラジャヌクル病院がおかれている。病院内の施設は、学校や職業訓練校でもすべて厚生省の管轄下にある。文部省は、特別学校、特殊学級を管轄し、内務省は、養護に欠ける障害児を管轄している。

6-3-3. 精神遅滞者の教育、福祉の現状

(1) 政府機関によるサービス

(ア) 厚生省の管轄下にあるラジャヌクル病院はタイの精神遅滞者のセンター的な役割を果たしてきた。現在、病院は医療、教育、職業訓練等全般的なサービスを行っている。

医療サービスとしては、外来相談部門、0歳から6歳までの早期対応、リハビリテーションを行っている。早期対応については、Dingdang 地区に Community Center を運営している。教育サービスには、ラジャヌクル病院敷地内に250人の生徒をもつ学校を運営している。職業訓練は、ラジャヌクル病院でも行っているが Bangpoon 地区に職業訓練校を運営している。

(イ) 文部省の管轄下には養護学校と特殊学級が運営されている。

(ウ) 内務省

精神遅滞者に対して、養護に欠ける7歳未満の児童施設と7歳以上の人の二つの居住施設を運営している。

(エ) 大学省

大学には Chulalongkon University 教育学部に障害児教育のコースがあり、教員養成大学で精神遅滞児のコースを持つ大学は5校あり内1校は修士課程を持っている。

(2) 民間団体によるサービス

(ア) Foundation for the Welfare of the Mentally Retarded of Thailand : 学校、重度障害の子どもへのデイ・センター、職業リハビリテーションセンター（寄宿舎つき）、幼児のデイ・センター、その他、北部、南部、東北部にランチをもつ。

(イ) Setaban Saeng Sawang Foundation :

バンコック市内に児童の通園センター、職業訓練センターを運営しており、農村部にも3カ所のデイ・センターを運営している。

(ウ) Daughters of Charity

東北部の Khon Kaen, Loei の各県に2カ所、Nakhon Si Thammarat に1カ所の C B R 計画を実施している。

(エ) Parent's Association for the Mentally Retarded:

重度の障害児の入所ホームと作業所を運営している。

6-2-4. 訪問による実態調査

(1) ラジャヌクル病院

副院長の Dr. Kalaya より病院全体のプログラムについて会議室で説明を受けた後、早期対応のプログラム、学校、職業訓練センターを見学する。

早期療育のプログラムでは0歳～1歳半の乳幼児グループ、1歳半～3歳の歩き始めのグループ (Toddler Group)、3歳～5歳の学齢前のグループに分けてそれぞれの指導を行っている。医師の他、理学療法士、言語治療士、サイコロジスト、看護婦などの職員が関係し、例えば乳幼児グループでは週一回親と子どもが来所し家庭でのプログラムを与えながら指導している。トドラーグループではダスン症を中心とした40家族が来所し、学齢前のグループでは、週3回総勢44名の児童が来所している。

学校は一学級14、5人で総勢150人の生徒が学んでいる。また、職業前訓練センターでは、15、6歳の学校を卒業した生徒が53人6人の指導員が対応している。

(2) バンブーン職業訓練センター

訓練生定員80人(現員51人)の寄宿舎をもつ職業訓練センターである。訓練生は、ラジャヌクルの学校を卒業した生徒である。職員は教師7名、職業指導員26名、看護婦4名、介護助手14名である。訓練の内容は、農業、魚の養殖、窯業、工芸品作成、木工、金工など幅広く行われている。設立は1970年でその間250人の訓練生が卒業している。しかし、就労した者は約20人であり、ほとんどが訓練後、帰宅している。周辺には Bangadi 工業団地もあり、企業に雇用を頼みにいくが雇用主の理解が得られず非常に困難である、とのことであった。だんだんと親類との関係が切れた訓練生が出、長く留まり入所施設の傾向がでてきている。この施設の運営費は、年間400万バーツかかっており、なんらかの就労をより可能にする有効な新しい展開が必要ではないかと思った。

(3) Punyawuthikorn School

The Foundation for the Welfare of the Mentally Retarded of Thailand が運営しているタイで2番目にできた学校である。学校には、5歳から18歳までの生徒が在籍し、卒業をした18歳から25歳までの人が職業訓練校で働いている。生徒と訓練生総数で200人である。教師数36

人その他事務員等が12人働いている。

教室は明るい感じで8人から10人の生徒が教師と助手で授業をしている。職業訓練ではタイルのシート張り、おもちゃ部品の組立などを行っている。

教師の件費は、13人分について政府から援助を受けている。資金は例えば、ボーイスカウトのようなグループが百貨店等で募金をしたり、パーティを行って得るとのことであった。タイの日本人会婦人部からも2回ほど寄付があったという。

(4) Rajabhat Institute Suandasit

教員養成の学校で、特殊学級と盲児の早期療育センターを見学した。特殊学級では聴覚障害、精神遅滞、自閉症児などが教育を受けており、早期療育センターでは特に盲児の早期訓練を実施し、今後多障害の早期対応センターを教育の領域の中で充実する方向を示した。

6-2-5. 現状の問題と今後の課題

タイでは、1962年以来、厚生省 (Ministry of Public Health) により精神遅滞者の病院、学校、居住施設等をもつラジャヌクル病院が設立された。これは、文字通りタイの精神遅滞者のセンターとして展開し、早期教育、学校教育、就労までの広い分野をカバーし、地域へのランチも設立した。

しかしながら、その後の30年間、ラジャヌクルのこのモデルは、タイ国全体のサービスとつながることなく、内務省 (Ministry of Interior) の管轄する二つの入所施設を含めても、人口に比べると精神遅滞者のサービスの量は非常に限られている。

一方、民間団体は王室関係の援助を受けて進展し、重度の障害者や授産施設、グループホームなどを運営している The Foundation for the Welfare of the Mentally Retarded や地域のデイ・ケアや家庭訪問プログラムを展開している Setaban Saeng Sawang Foundation 東北部の農村部のいくつかの県で CBR 計画を積極的に進めている Daughters of Charity 等がある。

これらの政府、非政府団体によるサービスは相当に充実したものと思われるが、それでもサービスを受けている人々の数は少なく、今後これらのサービスが広く普及することを願っている。

特に感じた点は以下の通りである。

(1) より多くの人々にサービスが提供できるように

タイのこの30年間の経済成長はめざましく、国民一人当たりの GNP も1990年には1420 USドルになった。しかしながら、1987年から1991年までの国家総予算にしめる社会福祉局予算の割合は、0.3%台である。障害者社会復帰法 (Rehabilitation of Disabled Persons Act) が1991年に施行されたが、今後この法律にそって十分な予算的措置がとられることを期待したい。

(2) 障害者の政府における管轄

精神遅滞者に対しては、これまで保健省（Ministry of Health）が中心になって管轄してきたが、今後学齢時は文部省（Ministry of Education）に、就労や居住のサービスは労働福祉省（Ministry of Labour and Public Welfare）に移され展開する方向にあるとのことであった。これらの展開は、訪問調査でも、教育の中での早期対応、職業訓練所の就労率の低さで問題と感じていたことであり、早期の実現を期待したい。

(3) 農山村部のサービスについて

ラジャヌクル病院のランチがチェンマイですすでに建物を完成した、との報告を聞いた。チェンマイのセンターは、チェンマイ精神遅滞児養護学校がすでにあるため、チェンマイ県周辺の農山村部へのサービスをCBR計画に対応して行う予定である、との報告があった。これまで農山村部の障害者はほぼ家庭におかれたままでサービスが行き届いていないとの報告があり、是非、これらのCBR計画が実現することを期待したい。また、この際に東北部ですすでに実施している Daughters of Charity のグループと連携を深め、政府、非政府団体の協力のモデルを実現されることを期待したい。

(4) 特殊学級の展開について

普通児の初等教育が充実にするにつれて知的障害の問題をもつ児童が問題化してくる。この際にも、ラジャヌクル病院他ですすでに展開している統合教育の方法が広く他の学校にも及びできるだけ普通児とともに教育を受けることを期待したい。

(5) 親の会の活動について

ラジャヌクル病院の養護学校の父兄を主体にした親の会が存在していると報告を受けた。これらの親の会の動きは、比較的ラジャヌクルを中心とした中で活躍しているようであった。しかし、経済発展とともに、人々の人権意識も高まっており今後ラジャヌクル学校以外の障害児の親たちとの連携を深め、親の会の活動が一層大きく展開することを期待したい。

7. 帰国研修員の印象

本コースの帰国研修員は今回訪問した3カ国では合計35名だが、そのうち今回の調査日程中、スリ・ランカ6名、パキスタン2名、タイ6名の合計14名に実際に会って話を聞くことができた。

面接はいずれの国でも集団でディスカッション形式で実施された。質問事項としては、帰国後現在まで携わってきた仕事の内容や、日本での研修の印象、研修の結果本国で始め

た新たな活動の様子や問題点、日常の業務内容、各国の状況など多岐にわたった。これらの面談の結果最も明確になったのは「精神薄弱福祉コースの研修員として効果的なのはある程度影響力のある地位にいる人達である」ということである。それは以下の理由による。

帰国研修員は大ざっぱに2つのグループに分類できる。一つめのグループは特殊学級や養護学校の先生、病院の看護婦、ソーシャル・ワーカーなどいわば障害者福祉の最前線で働く人達である。二つめのグループは政府の社会福祉省の担当官や、病院の婦長、授産施設の責任者など、ある組織を総括するか、その組織の活動方針に影響を及ぼすことのできる職位にある人達である。

前者のグループは日々目の前に障害児を抱えており、その指導で精一杯であり、自分の国の障害者福祉はどうあるべきかを考えるゆとりは少ないし、またそういうことを期待されてもいない。研修終了後も前と同じ内容の業務を続けている場合が多く、こちら側が日本での研修で得たことの具体的な応用例などを聞いても、あまり的を得た答えは返ってこず、日本での経験に関する漠然とした印象を語るのみであることがほとんどであった。

これとは対照的に後者のグループの帰国研修員になると、自分が印象を受けた研修内容ははっきり覚えており、また日頃の業務で何とかそれを導入しようと悪戦苦闘する様を語ってくれる。換言すれば、具体的な研修成果を彼等は日頃あげているのである。

集団研修というスキームのさまざまな制約や、精神薄弱福祉コースの広範囲にわたるカリキュラム編成を考えた場合、その研修対象として、得た知識をフルに自国の障害者福祉政策やサービス実施に生かせるような立場にある人を選ぶのはごく自然なことであると思われる。

8. 精神薄弱コースの今後

今回の訪問を総括して、これからの研修生候補としては、帰国後に精神遅滞のサービスを国に展開するのに影響力のある人を期待する、という方向性が出された。

今回の元研修生の追跡調査では、多くの人々が帰国後も精神遅滞者を中心とした障害者の仕事に関与しており、その中には帰国後昇進し、国の重要な地位で活躍を続けている人もいれば、現場の中で活躍している人もいた。

今回の訪問で、今後の研修生の候補者としてその国の中で精神遅滞のサービスを拡大するのに影響力のある人にする、という方向を実施するに当たり考慮しなければならないと思われた点は以下の通りである。

a. 研修候補者は、政府機関で働いている場合と、民間団体に働いている場合の双方が考えるべきである。

今回の訪問では政府機関への訪問が中心となり、3カ国の内、いずれも民間団体のサー

ビスについて完全に把握できたとはいえない。しかしながら、各国の概況で述べたように、発展途上国では福祉サービスに割り当てられる国家予算は非常に限られており、非政府団体によるサービスの方が優勢な場合が多い。このような状況では、国全体のサービスの質や量を高める方向に動くとするれば研修候補生の人材は政府機関のみでなく、民間団体からも来れるような配慮が必要と思われる。

b. アジアの国々の精神遅滞に関する情報収集の必要性

訪問した3カ国のいずれの政府機関でもその国の精神遅滞者のサービス全般についての情報を把握しているとはいいがたい状況にあった。この理由には、福祉関係従事者が自分の運営団体のサービスで手一杯であること、障害者福祉に対する途上国の社会意識の低さ、農山村部での情報交換の困難性、政府機関と民間団体の協力体制の必要性の欠如等多様な理由が考えられるが、今後の研修候補者を国全体のサービスの展開に影響力のある候補者という場合、候補者選択を相手国にのみ任すのではなく、日本側もその国の中でサービスを実施している団体についてその役割や活動を把握する一層の努力が必要である。

この情報を蓄積するには以下のような方法が考えられる。

第一は、カントリーレポートの内容改善である。

その国の精神遅滞者のサービス状況については、現在は参加者のカントリー・レポートが貴重な資料となる。しかし、これまでの研修者からのカントリー・レポートは多くの場合重複した部分が多く絶対的な情報量はきわめて少ない。今後参加国をアジアに限定するのであれば、それぞれの国について日本側も諸文献、資料によって現時点ではここまで把握しているという国別の現況に関する基礎資料を英文で作成し、研修参加国にはその基礎資料をさらに充実する新たな情報を求める、という方式をとるべきであろう。

第二には、これらの国別の現況基礎資料の収集にあたっては、国内で行われている多様な途上国の障害者援助に関する研修プログラム、例えばJICAの日本リハビリテーション協会、スポーツ協会の実施している研修、国立特殊教育総合研究所のおこなっているAPEID、日本社会福祉協議会、国際社会福祉協議会、あるいは各民間施設で自主的に行われている交流、研究者グループなどが総合的に基礎資料の集積に参加し、相互に利用できる形にすることが望ましい。

第三に元研修員との交流連絡をさらに深め、元研修員が期待する日本の情報を提供するとともに、その国の情報を得る方策も考えられる。

第四には、後述する海外青年協力隊の報告がこの国別基調レポートの重要な資料となる可能性がある。

c. CBRに関する情報の必要性

CBR (Community-Based Rehabilitation) については、3カ国のいずれでも話題になった。スリランカでは、政策の中の重要な柱として取り入れている。しかし、これまでの日

本の集団研修の中では特にふれていない。これはCBRに詳しい講師が少ないという現状もあろうが、CBRが、その地域の社会にあったいろいろな方法が展開されているためでもある。しかし、現状をみるとなんらかの形で研修の中に導入することが望ましい。

例えば、地域毎の多様性を考慮しながら、講義とともにそれぞれの国のCBR計画の実態や事例を出しながら、討論によってお互いが学ぶ形式も考えられる。

9. 今後のアジア地域の障害者援助

(1) 援助の必要条件：各国や地域における生活環境とニーズの把握

他国への援助は、他人への援助と同じように、相手国で人々が生活している生活環境の全体を把握し、今本当に必要としているニーズを把握することが最初の一步である。この基本的な立場は、土木や通信の技術援助でも、障害を持つ人への援助でも同じであろう。

しかし、これまでの集団研修精神薄弱コースは、日本における障害者の生活全体に多岐にわたるサービスを紹介し、それを研修生がそれぞれの国に合うように適応する事を願って学んでもらうという方向で進めてきた。日本の現在の障害者のサービスは実に多様であり、それらは欧米よりもよりアジア諸国の文化に近いものを提供し、それなりの研修効果を示したはずである。

このような集団研修でも、各年、研修生からできるだけその国の事情を聞き、その後の研修スケジュールに個別研修の機会を盛り込んだりしながらそれぞれの国の状況に対応した援助を行えるように努力してきた。

しかしながら、集団研修で相手国の現状を理解しつつ援助を行うのは前述した諸問題のため実際にはかなりの困難が伴う。

今回の訪問によって、研修生のカントリーレポート等によって得られている情報は必ずしも国の現状を十分に伝えるものとなっていない、という感じをもったし、政府機関の説明の後に実際に訪問してみると、現地で「ああ、こういうことだったのか、」と初めて理解する状況に再々ぶつかった。政府機関の担当官ですら民間団体を含めた国全体のサービスについては確実な情報を持っていない、とも感じた。特に、農山村部でのサービスの実状はきわめてわかりにくかった。

(2) 新しい研修方法の必要性

発展途上国のサービスの内、都市部では専門家がおり施設の整った中でのサービスは、先進国に似ており比較的わかりやすい。しかし、3カ国の訪問でもそうであったが、発展途上国の多くの人口をもつ農村部での地域サービスの活動はCBR計画等を導入しているもののその実態はわかりにくい。障害を持つ者が都市部よりも農村部に多く現れることも

あり、これらの活動への援助は今後、発展途上国の重要な部分となることが予想される。

この比較的わかりにくい部分の活動に対し、今後の援助の可能性を強く感じたのがスリランカでの海外青年協力隊の活動である。ここでは、16名の協力隊員が福祉関係の多岐にわたる業務に携わっており、これらの人々の活動内容を聞くにつれてそこで経験する情報を有効に利用し、それらの経験を総括し、体系づけて考える作業が途上国のサービスの現状と今後の方向を考える上で相当に重要な役割を持つのではないかと感じた。また、パキスタンでは海外青年協力隊の調整中であったが、現地でのサービス団体の期待は非常に高かった。タイには昨年2名の協力隊員が障害児のリハビリテーションに関わり、大変な熱意で取り組んでいることを知ることができた。

スリランカ、タイの協力隊員の人からは、農村部における障害者のサービスは、日本での聴覚障害、肢体不自由、言語障害、精神薄弱等に分化したサービスと異なり、多くの場合、多様な障害にわたって指導する事が要請されるため、現場でさらに専門的な指導を仰ぎたい、という強い要望も聞いた。われわれ自身もそうした協力隊員の相談の一部を行ってきた。

今後の方向として、こうした海外青年協力隊自身の経験を重要な情報源として国全体のサービスにを視野に置いた方向を考える基礎資料に加えるとともに、協力隊員の現場での研修とその国の障害者政策の現状把握の二重の意味で、専門家チーム（PT、OT、ST、SW、サイコロジスト、教師、途上国障害者政策の専門家等）の派遣を行う事が、「現地のニーズの把握がしにくい」という日本国内の集団研修の大きな壁を乗り越えることにつながり、かつ今後の障害者の途上国援助を展開する有効な方法になるであろう、と強く感じた。

参考文献

国内で行われている障害者関係の研修には以下のものがあり、それぞれの研修プログラムに参加したカントリー・レポートが役に立つ。

* 国際協力事業団

集団研修「精神薄弱福祉」

「障害者リハビリテーション指導者（専門家）」

「障害者リハビリテーション指導者（障害者リーダー）」

「身障者スポーツ指導者」

「補装具製作技術」

* 「アジア児童福祉等従事者長期研修事業」全国社会福祉協議会

* 「アジア・ソーシャルワーカー日本研修プログラム」国際社会福祉協議会日本国委員会

* 「アジア・太平洋地域特殊教育研修セミナー（APEID）」国立特殊教育総合研究所

その他、事前調査で参考とした文献は以下の通りである。

スリランカ

* Welikala,C.(1993):Country Report for the Ceylon Association for the Mentally Retarded,Proceedings of 11th Asian Conference on Mental Retardation,858-861

* Ministry of Reconstruction,Rehabilitation and Social Welfare(1994): A list of Institutions for the Peoples with Disabilities.

* Ministry of Reconstruction,Rehabilitation and Social Welfare(1994): Policy Guidelines for the Disabled of Sri Lanka.

パキスタン

* Miles,M.(1988):Khurshid -a success story-.The Mental Health Center,Peshawar, Pakistan

* Miles,M.(1988):Rehabilitation Broadcasts for Rural Areas.:The Netherlands Organization for Development Cooperation.

* Directorate General of Special Education,(1988):National Policy for the Education and Rehabilitation of the Disabled(1988 review).Islamabad:Government of Pakistan

* Miles,M. (1990):Special Education in Pakistan. International Journal of Disability, Development and Education,37(2),159-168

* Miles,M. (1990)Special Education for Mentally Handicapped Pupils - a teaching manual(Revised Edition).The Mental Health Center,Peshawar, Pakistan

タイ

- * 小澤 温、稲垣基彦、渡辺勸持、大島正彦 (1991) : タイの精神遅滞児福祉 (上) 月刊福祉、1月号、110-117
- * 大島正彦、渡辺勸持、稲垣基彦、小澤 温 (1991) : タイの精神遅滞児福祉 (下) 月刊福祉、2月号、110-117
- * 大島正彦、渡辺勸持、小澤 温、稲垣基彦 (1991) : タイの精神遅滞者福祉 — Chiang Mai 周辺。愛護、11月号、44-48
- * Ministry of Public Health (1991): Rehabilitation of Disabled Persons Act.
- * Vanrunee,K.(1993): Social Welfare Services for Persons with Intellectual Disability. The Draft of the Symposium in Nagoya.
- * 萩原康生 (1993) : タイの障害者福祉 — その新たな出発。リハビリテーション研究、77 (9) 30-35
- * Oshima,K.,K.Watanabe.,T.Inagaki,V.Komkris,R.Prasansri,M.Yoktri.(1993):A Study on Community-Based Services for People with Developmental Disabilities in Thailand. アジア発達障害研究会「インドネシア・タイにおける精神遅滞者への地域生活援助に関する実践的研究」、77-85、Toyota Foundation.
- * 末廣 昭 (1993) : タイ 開発と民主主義。岩波新書。

各国の紹介に関するもの：

- * President's Committee on Mental Retardation, Office of Human Development Services,U.S. Department of Health and Human Services.(1989): *International Directory of Mental Retardation Resources*.
- * 日本精神薄弱者愛護協会 (1991) 世界精神薄弱福祉事情

精神遅滞者のC B Rに関するもの

- * O'toole, B.J.(1991): *Guides to Community-Based Rehabilitation*. UNESCO
- * Brouillette,R. & Mariga,L.(1993): *Community-Based Approaches for Individuals with Mental Handicap An African Experience*.ILSMH
- * Twible,R.L. & Henley,E.C.(1993):A Curriculum Model for a Community Development Approach to Community-Based Rehabilitation.*Disability,Handicap & Society*,8(1),43-57.

資 料

佛國研修員

NAME	TRAINING SUBJECT	DURATION	PRESENT OCCUPATION			RESIDENCE			REMARKS
			POST	NAME OF ORGANIZATION	ADDRESS	TEL	ADDRESS	TEL	
MR. KURUPPU MUDIYANSELAGE WEE (8001628)	MENTAL RETARDATION (10)	1980 9/11 - 1981 3/10	SOCIAL SERVICES OFFICER	DEPT. OF SOCIAL SERVICES	DEPT. OF SOCIAL SERVICES, VOXXOLL STREET COLOMBO 2 SRI LANKA			DELIWALA RAMBUKKANA SRI LANKA	
MS. N. H. HANEL WASANTHA KUMARI (8102112)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1981 9/10 - 1982 3/9		SOCIAL SERVICES DEPARTMENT	SOCIAL SERVICES DEPARTMENT VAUXLE ST. COLOMBO SRI LANKA			NO. 10 DAHENPAHUWE YATAGAME RABUKKANA SRI LANKA	
MR. RIYATILAKE PODULITHA SOONAHAR (8202117)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1982 9/9 - 1983 3/8	SUPERINTENDENT REHABILITATION SERVICES	DEPARTMENT OF SOCIAL SERVICES GOVT OF SRI LANKA	VAUXHAL STREET NO. 136 COLOMBO 02 SRI LANKA			351/1 GALLE ROAD RATHALANA SRI LANKA	
MR. KIRIBANDA RAJAPAKSA (8302225)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1983 9/8 - 1984 3/9	SOCIAL SERVICES OFFICER	DEPT. OF SOCIAL SERVICES	DEPT. OF SOCIAL SERVICES SRI LANKA			19 SUSIRI PALE ASIRIYANA MORATUWA SRI LANKA	
MR. DELANKAGE PIYADASA (8401401)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1984 8/23 - 1985 3/5	SOCIAL SERVICES OFFICER	DEPT. OF SOCIAL SERVICES	DEPT. OF SOCIAL SERVICES COLOMBO SRI LANKA			MAHAGAMA KOHLAGEDARA SRI LANKA	
MR. P. J. KARUNARATNE (8501722)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1985 8/22 - 1986 3/4	SOCIAL SERVICES OFFICER	DEPT. OF SOCIAL SERVICES	DEPT. OF SOCIAL SERVICES, COLOMBO 2 SRI LANKA			KITUDENIYA ESTATE HANDESSA, SRI LANKA	
MS. P. R. J. NANDANIE DE SILVA (8700900)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1987 6/11 - 1987 12/20	SUPERVISOR	MINISTRY OF EDUCATION	ISURU PAYA SRI JAYAWARDENA PURA BATTARAMULLA SRI LANKA	001-94-1		49 ETHARTE ROAD MUKALANGAMUWA SE EDUWA 001-94	
MS. H. Y. CHITRANGANIE (8801137)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1988 6/13 - 1988 12/19	ASSISTANT DIRECTOR SOCIAL SERVICES	DEPARTMENT OF SOCIAL SERVICES	DEPARTMENT OF SOCIAL SERVICES O.S. SENANAYAKA MAWATHA BORELLA	96207		HEPAPOLA GAMPOLA SRI LANKA	
MS. DAMITHA DAKSHINA LIYANAGAMA (9000271)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1990 6/11 - 1990 12/21	SOCIAL SERVICES OFFICER	SOCIAL SERVICES DEPARTMENT	SAME ADDRESS AS ABOVE	714500		33 RAJAMAWATHA RATHALANA SRI LANKA 714500	
MR. K. A. NIPAL KARUNATILAKE (9100553)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1991 6/3 - 1991 12/13	TEACHER	MINISTRY OF EDUCATION	C/O CENTRAL COLLEGE, MEDAWACHCHA, SRI LANKA	01 564812		NO. 49 MAYURA MAUATHA BELLANMILA BORELESAPAMUWA SRI LANKA 716570	

外國研修員名簿

NAME	TRAINING SUBJECT	DURATION	POST	PRESENT OCCUPATION			RESIDENCE		REMARKS
				NAME OF ORGANIZATION	ADDRESS	TBL	ADDRESS	TEL	
MS. QAMAR-UN-NISA SIDDIQUI (8402360)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1984 8/22 - 1985 3/ 5	SOCIAL WELFARE OFFICER	'SHAMA' DAY CARE CENTRE FOR MENTALLY RETARDED	SHAMA DAY CARE CENTRE FOR DISABLED PERSON'S COMPLEX BRUERY ROAD QUET		3-9/57 FAIHA JINNAH ROAD QUETTA BALUCHISTAN		
MR. DR. KHALID MAHMOOD RAO (8501843)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1985 8/21 - 1986 3/ 4	MEDICAL ADMINISTRATOR	CHAMBALI INSTITUTE OF HEALTH, SOCIAL EDUCATION, WELFARE	CHAMBALI INSTITUTE - SATELLITE TOWN RAMALPINDI		F682 SATELITETOWNRAMALF, NO. PAKISTAN		
MR. S. IZHAR HUSSAIN (8700672)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1987 6/10 - 1987 12/20		MINISTRY OF HEALTH, SPECIAL EDUCATION AND SOCIAL WELFARE	9-E RIZWAN PLAZA BLUE AREA PAKISTAN	814489	H-786 ST-6H 9/9-H		
MR. IRSHAD QAZI (9000882)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1990 6/16 - 1990 12/21	ASST PROFESSOR OR INCHARGE OF PSYCHOM	HEALTH DEPARTMENT HOSPITAL KARACHI	CIVIL HOSPITAL DOW MEDICAL COLLEGE HEALTH DEPARTMENT KARACHI PAKISTAN	724973	1213-16 F B AREA BLOCK 16 KARACHI PAKISTAN	724404	
MS. ABIDA SHAIKH (9303032)	MENTAL RETARDATION	1993 8/30 - 1993 12/11	SENIOR TEACHER	SPECIAL EDUCATION & SOCIAL WELFARE DIV. MINISTRY OF HEALTH	21-A G-O-R COLONY HYDERABAD SINDH PAKISTAN	0221- 782796	3-E UNIT No.8 LATIFABAD, HYDERABAD SINDH PAKISTAN	0221-81694	

帰国研修員名簿

NAME	TRAINING SUBJECT	DURATION	PRESENT OCCUPATION			RESIDENCE		REMARKS
			POST	NAME OF ORGANIZATION	ADDRESS	TEL	ADDRESS	
MS. SIRIJA SIDDHIVARN (8001629)	MENTAL RETARDATION (10)	1980 9/11 - 1981 3/10	SPECIAL EDUCATOR	RAJANUKUL HOSPITAL	4737 DINDANG ROAD PHAYA THAI BANGKOK THAILAND		333 PRAJARAS II BANGSUE BANGKOK THAILAND	
MS. PALJUN SUDSAWANG (8102244)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1981 9/10 - 1982 3/9	NURSE	RACHANUKUL HOSPITAL	4737 DINDANG RD BANGKOK THAILAND		25/4 LAROPROW 35 LAROPROWD BANGKOK THAILAND	
MR. SAMRIT DANGPUNETONG (8202120)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1982 9/9 - 1983 3/8	TEACHER	THE MINISTRY OF PUBLIC HEALTH	4737 DINDRENG RD. BANGKOK THAILAND		100/168 SEAPGAMES VILLAGE BANGKOK THAILAND	
MS. PRANON PRASERTSIRISAK (8302438)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1983 9/8 - 1984 3/7	TEACHER FOR SPECIAL EDUCATION	SPECIAL EDUCATION DIVISION	DEPT. OF GENERAL EDUCATION MIN. OF EDUCATION BANGKOK 10300 THAILAND		100 CHOLINHAIE PRACHACHUEN RD. BANGKOK 10900	
MS. JIRAWAN THAWATTOHIN (8302439)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1983 9/14 - 1984 3/7	SOCIAL WORKER	RAJANUKUL HOSPITAL AND TRAINING SCHOOL	4434 DINDAENG ROAD BANGKOK		52 301 SASANA PHRARAHE ROAD PHAYATHAI BANGKOK	
MS. NOLNIT VICHAPIN (8401588)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1984 8/23 - 1985 3/5	4737 DINDANG ROAD	RAJANURUL HOSPITAL	4737 DINDANG ROAD BANGKOK 10400 THAILAND		4737 DINDANG ROAD BANGKOK 10400 THAILAND	
MS. LAMYONG KEEPATONT (8500854)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1985 8/22 - 1986 3/4	TEACHER	MIN. OF EDUCATION	PUNGAHUTHIKORN SCHOOL		63/31AMBOLBANG YUANG AMPHOEBANGYAINONTHABOURI 11140 THAILAND	
MS. KULLAYA KOSWAN (8602233)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1986 8/25 - 1987 3/8	NURSE IN KINDERGARTEN	RAJANUKUL HOSPITAL	4737 DINDAENG RD. BANGKOK THAILAND		4737 DINDAENG RD. BANGKOK 10400 THAILAND	
MS. CHANISA VECHVIRIPOOL (8700694)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1987 6/11 - 1987 12/20	4737 DINDAENG ROAD	RAJANUKUL HOSPITAL	4737 DINDAENG RD. BANGKOK 10400 THAILAND	2454601-5	78 PADPROM 63 BANGKOK 10310 THAILAND	
MS. SUMJON UDON-PIRIYASAK (8700695)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1987 6/11 - 1987 12/20	SUANDOSIT TEACHERS COLLEGE	SU AND OSTI TEACHERS COLLEGE	10300 THAILAND	2432233	29/35 CHANPRASONG VILL. REMADEERD. THAILAND	5884456

佛國研修員名簿

NAME	TRAINING SUBJECT	DURATION	PRESENT OCCUPATION			RESIDENCE			REMARKS
			POST	NAME OF ORGANIZATION	ADDRESS	TEL	ADDRESS	TEL	
MS. SRIMAPHEN CHINCHONSE (8800193)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1988 6/13 - 1988 12/19	NURSE	RASANKUL HOSPITAL MINISTRY OF PUBLIC HEALTH	4737 DINDRENG ROAD BANGKOK THAILAND	2454601 5	38/549 SOI CHANDRAVICHIEH CAO PRAO 47 BANGKAPI BANGKOK THAILAND	5301539	
MS. SUMANTA TIANGTRONG (8900899)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1989 6/12 - 1989 12/16	LECTURER	CHIANGMAI TEACHERS COLLEGE	130 CHOTANA RD. CHANGPUAK CHIANGMAI THAILAND 50000	053 214138	181/236 POTARAK RD. CHANGPUAK CHIANGMAI THAILAND 50000		
MR. SOMCHAI TEAKUL (8900900)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1989 6/12 - 1989 12/16	LECTURER	CHIANG MAI UNIV ERSITY	CHIANG MAI 50002 THAILAND	053 221699	1/8 SUTHEP ROAD SUTHEP MOO 8 CHIANG MAI 50000 THAILAND		
MS. PUTTIPORN PHURISAT (9000266)	(C) MENTAL RETARDATION (10)	1990 6/11 - 1990 12/21	NURSE	RAJANKUL HOSPITAL (4737 DINDRENG) PAYATAI BANGKOK 10400 RAJANKUL HOSPITAL THAILAND	4737 DINDRENG PAYATAI BANGKOK 10400 RAJANKUL HOSPITAL THAILAND	2454601	604 SOI 25 KLONGCHAN BANGKAPI BANGKOK 10240 THAILAND	377-1305	
MS. PANIDA RATANAPAIROJ (9303733)	MENTAL RETARDATION	1993 8/30 - 1993 12/11	NURSE	RAJANKUL HOSPITAL	4737 DINDRENG RD	2157601	6/235 SUKPHATIBAN 2 BUENGRUJUM DISTRICT BANGKOK		

Colombo, February 10, 1994

Dear Sir

It is my great pleasure to submit the Summary Report of the Follow-Up Team for Ex-Participants of the Group Training Courses in Mental Retardation.

The Team, which was dispatched by the Japan International Cooperation Agency as a part of its technical follow-up program for ex-participants, and consists of three members as mentioned in the report, arrived in Sri Lanka on February 7, 1994.

Through the visit of this time, we could obtain many valuable comments and suggestions about the abovementioned group training course from the competent authorities concerned and also from the ex-participants and other people around them. We are sure that the information we acquired should be greatly useful for the purpose of improving the course and also the entire technical cooperation programme of JICA.

Finally I would like to express my heartiest appreciation for your warm hospitality and kind cooperation extended to us during our stay in your country.

Sincerely,

Kaoru Yamaguchi
Team Leader

SUMMARY REPORT

BY

THE FOLLOW-UP TEAM FOR THE EX-PARTICIPANTS
OF THE GROUP TRAINING COURSE
IN
MENTAL RETARDATION

February 1994

Japan International Cooperation Agency

INDEX

- I. OBJECTIVE
- II. PERIOD
- III. MEMBERS
- IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM
- V. PERSONNEL IN SRI LANKA WHOM THE TEAM MET
- VI. IMPRESSION OF THE TEAM

I. OBJECTIVE

Environment surrounding the physically and mentally handicapped is heavily influenced by cultural, social, and economical aspects of a country, which makes it difficult to design the most appropriate form of cooperation from Japan, where aforementioned factors differ considerably, to alleviate particular difficulties faced by the disabled them-selves and people around them.

Ever since its inauguration in 1980, the group training course in Mental Retardation has been a subject of discussion as to the effectiveness and applicability of its curriculum. The discussion has been unable to produce a clear-cut result since there is a lack of comprehension regarding what is really required in recipient countries.

In order to have a better recognition of reality involving the mentally retarded (or the physically and mentally handicapped as a whole) and thus to be able to draw more appropriate plan for training of the relevant personnel, Japan International Cooperation Agency dispatches a follow-up mission to Sri Lanka, Pakistan and Thailand.

II. PERIOD

From February 7 to 24, 1994 (Sri Lanka Feb 7 to 10)

III. MEMBERS

- (1) Prof. Kaoru Yamaguchi (Team Leader)
President
Japan League for the Mentally Retarded

- (2) Kanji Watanabe
Head of the Department of Social Welfare

Institute for Developmental Research

Aichi Prefectural Colony

- Welfare Center for Persons with Developmental Disabilities

(3) Takehiro Hozumi (Planning & Coordination)

Training Officer

First Training Division

Tokyo International Centre

Japan International Cooperation Agency

IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

- Feb. 7 Arr. Colombo
- 8 Visit - JICA Sri Lanka Office
Courtesy Call - Department of External Resources
Courtesy Call - Embassy of Japan
Meeting - Ministry of Reconstruction, Rehabilitation
& Social Welfare
- 9 Meeting - Department of Social Services
Meeting - National Institute of Education
Luncheon hosted by the Team leader
Observation - Rehabilitation Centre for the Mentally Retarded
- 10 Dep. Colombo

V. PERSONNEL IN SRI LANKA WITH WHOM THE TEAM MET

- (1) Department of External Resources, Ministry of Finance
Mr. B. H. Passaperuma Deputy Director
- (2) Ministry of Reconstruction, Rehabilitation & Social Welfare
Mr. Christie Silva Secretary and Commissioner
General of Essential Services

- Mr. N.A.H.W. Mendis Senior Assistant Secretary
- (3) Department of Social Services
- Mr. M.W. Kuruppu Superintendent,
Vocational Training Centre for the
Disabled, Ketawala, Leula, Ampitiya
(Ex-participant, '80)
- Mr. D. Piyadasa Social Services Officer
North Western Provincial Council
(Ex-participant, '84)
- Ms. W.Y. Chitranganie Assistant Director Social Services
(Ex-participant, '88)
- Ms. D. Liyanagama Social Services Officer
(Ex-participant, '90)
- (4) Ministry of Education and Higher Education
- Mr. D.S. Mettananda Director of Education, Sri Lanka
Education Administrative Service
- (5) National Institute of Education
- Dr. T. Kariyawasam Director General
- Mr. B.L. Rajapakse Director
- Ms. P.H.J.Nandanie De Silva Chief Project Officer
(Ex-participant, '87)
- Mr. K.A. Nimal Karunathilake Specialist Teacher
(Ex-participant, '91)
- (6) Rehabilitation Centre for the Mentally Retarded
- Mr. A.W. Senaratne Superintendent

VI. IMPRESSION OF THE TEAM

i. Overall Impressions

Our overall impression of the situation surrounding the mentally retarded in Sri Lanka can be summarized as follows.

First of all it has to be pointed out that Sri Lanka has relatively extensive, comprehensive welfare systems among the South Asian countries, as can be seen in free education, free medical care, or various institutions for rehabilitation of the disabled. The mentally retarded, however, seem to have been left out from this entire welfare scheme. Though the Ministry of Reconstruction, Rehabilitation & Social Welfare has drawn up a national action plan in 1992, a system to cover the needs of the mentally retarded in the nation does not yet seem to be sufficient, lacking trained personnel and facilities especially for the severely retarded.

On the other hand, Sri Lanka's existing welfare systems have ironically produced negative attitudes among parents toward their mentally retarded children. Stricken by poverty along with the lack of proper knowledge about mental retardation, there is a tendency of overdependence upon governmental measures and special institutions, which often does not comply with the worldwide trend of deinstitutionalization, normalization, and Community Based Rehabilitation (CBR).

ii. Interviews with Ex-Participants

Since the establishment of the Mental Retardation course in 1980, Sri Lanka has been listed among the countries eligible for application almost every year. The total number of ex-participants at the end of 1993 has reached 10, 6 of whom we were able to see and hear about the activities they have been involved since their return from Japan.

We were very much pleased to learn that Mr. M.W. Kuruppu, one of the course's first participants in 1980, has been continuously engaged in the field of social welfare for the disabled and is currently active as the Superintendent of

Vocational Training Centre for the Disabled in Ketawala.

In the field of social service, it was encouraging to see Mr. D. Piyadasa, Ms. W.Y. Chitranganie, and Ms. D. Liyanagama each playing important roles, as core government officers, in planning and execution of facility establishment or propagation of new ideas, keeping close contact with each existent facility.

We failed to meet Ms. N.H. Manel, but we can assume that, as a Social Services Officer, she is also utilizing her experience in Japan to its maximum potential.

In the field of special education, we were glad to see Ms. P.H.J. Nandanie De Silva involved in the task of staff training, which is one of the most important steps towards the development of special education.

Mr. N. Karunathilake is applying his experience as a special class teacher. We regard special classes as vital components of special education in the future in terms of integration. Therefore we would like to see him play a leading role in disseminating the scheme across Sri Lanka.

Although three of the ex-participants have already retired, it is worth mentioning that two of them are still actively involved in welfare activities as volunteers.

iii. Governmental Policy for the Disabled

We would like to compliment the Ministry of Reconstruction, Rehabilitation & Social Services drawing up the National Action Plan in 1992, and surely hope that the plan will be promoted and materialized.

Two aspects can be pointed out as key issues in further developing the social services in Sri Lanka. One is the movement to popularize CBR, which is already in progress in 33 divisions in accordance with the national policy. Since CBR enables to establish ideal relationships among social services officers, instructors, parents and the mentally retarded themselves, we expect the activities in 33 divisions become models and give incentives to introduce CBR in other divisions throughout the country.

The other point is the enhancement of residential institutions (homes) for particularly the severely retarded as we saw in Waturugama (We would like to

thank the residents and staff of the home for their hospitality). According to the documents provided, a number of non-government organizations (NGOs) operate this kind of facilities. Considering the number of NGOs active throughout the country, it is very much recommended, as is stipulated in the national policy, to promote the intimate cooperation with the NGOs in establishing necessary homes for the severely retarded.

iv. Japan-Sri Lanka Cooperation

Human resources development is the key to alleviating the difficulties involving the mentally retarded in Sri Lanka. The group training course in Mental Retardation is a very limited opportunity in terms of the number of Sri Lankan staff who can participate, which is only one per year (supposing Sri Lanka is allocated a berth in the course). Therefore selection of appropriate candidates is vital. It must be someone who can have overall influence in promoting certain activities or spreading ideas. It does not have to be government officials but also the responsible staff of major NGOs should be given a chance for application. At the same time it is requested to have the number of candidates balanced between the Ministry of Reconstruction, Rehabilitation & Social Welfare and the Ministry of Education, since both social services and special education are indispensable components of the measures for the mentally retarded.

Besides the group training course, it will be very effective to integrate various JICA schemes. For example, a group of experts or volunteers (JOCV) from Japan can be assigned to certain institutions or organizations, and staff of these institutions can be consequently given a chance to apply for either individual or group training programmes.

Finally we would like to express our heartfelt gratitude to all the respective authorities concerned, their superiors and our dear ex-participants for their kind cooperation, assistance and hospitality. We could not have carried out this work in the short time given to us if it had not been for tremendous help rendered by those who are concerned.

Thank you very much. どうもありがとうございました。 Bohma sutootti.

Islamabad, February 17, 1994

Dear Sir

It is my great pleasure to submit the Summary Report of the Follow-Up Team for Ex-Participants of the Group Training Courses in Mental Retardation.

The Team, which was dispatched by the Japan International Cooperation Agency as a part of its technical follow-up program for ex-participants, and consists of three members as mentioned in the report, arrived in Pakistan on February 10, 1994.

Through the visit of this time, we could obtain many valuable comments and suggestions about the abovementioned group training course from the competent authorities concerned and also from the ex-participants and other people around them. We are quite sure that the information we acquired should be greatly useful for the purpose of improving the course and also the entire technical cooperation programme of JICA.

Finally I would like to express my heartiest appreciation for your warm hospitality and kind cooperation extended to us during our stay in your country.

Sincerely,

Kaoru Yamaguchi
Team Leader

SUMMARY REPORT

BY

THE FOLLOW-UP TEAM FOR THE EX-PARTICIPANTS
OF THE GROUP TRAINING COURSE
IN
MENTAL RETARDATION

February 1994

Japan International Cooperation Agency

INDEX

- I. OBJECTIVE
- II. PERIOD
- III. MEMBERS
- IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM
- V. PERSONNEL IN PAKISTAN WHOM THE TEAM MET
- VI. IMPRESSION OF THE TEAM

I. OBJECTIVE

Environment surrounding the physically and mentally handicapped is heavily influenced by cultural, social, and economical aspects of a country, which makes it difficult to design the most appropriate form of cooperation from Japan, where aforementioned factors differ considerably, to alleviate particular difficulties faced by the disabled themselves and people around them.

Ever since its inauguration in 1980, the group training course in Mental Retardation has been a subject of discussion as to the effectiveness and applicability of its curriculum. The discussion has been unable to produce a clear-cut result since there is a lack of comprehension regarding what is really required in recipient countries.

In order to have a better recognition of reality involving the mentally retarded (or the physically and mentally handicapped as a whole) and thus to be able to draw more appropriate plan for training of the relevant personnel, Japan International Cooperation Agency dispatches a follow-up mission to Sri Lanka, Pakistan and Thailand.

II. PERIOD

From February 7 to 24, 1994 (Pakistan Feb 10 to 19)

III. MEMBERS

- (1) Prof. Kaoru Yamaguchi (Team Leader)
President
Japan League for the Mentally Retarded
- (2) Kanji Watanabe
Head of the Department of Social Welfare

Institute for Developmental Research

Aichi Prefectural Colony

-Welfare Center for Persons with Developmental Disabilities

(3) Takehiro Hozumi (Planning & Coordination)

Training Officer

First Training Division

Tokyo International Centre

Japan International Cooperation Agency

IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

- Feb. 10 Arr. Karachi
- 11 Dep. Karachi
Arr. Islamabad
- 13 Visit - JICA Pakistan Office
Courtesy Call - Embassy of Japan
Courtesy Call - Economic Affairs Division
Meeting - Ministry of Health
Meeting - Ministry of Special Education, Social Welfare
- 14 Observation - Chambali Institute for
Mentally Handicapped Children
Observation - Fatima Jinnah Special Education Centre
for the Mentally Handicapped Children
Observation - Ibne-Sina Special Education Centre
Observation - Rahat Ghar - Residential Home for
the Severely Retarded Children
Visit - National Council & Social Welfare
Dep. Islamabad
Arr. Karachi
- 15 Observation - Karachi Vocational Training Centre (KVTC)
Meeting - Director School Health Service, Karachi
Meeting - Sindh Government social welfare officials

- 16 Observation - Rehabilitation Centre for Multiply
Handicapped Children (RCMHC)
Meeting - Dr. Qazi Irshad Ahmed, Ex-participant
Dep. Karachi
Arr. Islamabad
- 17 Observation - National Training Centre for Disabled Persons
(NTCDP)
Evening buffet hosted by the team leader
- 19 Dep. Islamabad

V. PERSONNEL IN PAKISTAN WITH WHOM THE TEAM MET

- (1) Economic Affairs Division
Mr. Shalid Humayun Deputy Secretary
- (2) Ministry of Health
Dr. Fazal-ur-Rehman Assistant Director General
- (3) Ministry of Special Education and Social Welfare
Mr. S.M. Hasan Additional Secretary/
Director General
Mr. Mumtaz Hussain Malik Director (HIC), DGSE
- (4) National Council of Social Welfare (NCSW)
Mr. Syed Izhar Hussain Secretary/Director
(Ex-participant, '87)
Mr. Syed M.A. Hashmi Deputy Director
- (5) Sindh Provincial Government
Ms. Taiyaba Rizvi Director Social Welfare
Ms. Raheela Tiwana Advisor to Chief Minister
for Social Welfare
Ms. Sophia Shahabuddin Abro Press Secretary
Dr. Kamil Rajper Director School Health Service

- Dr. Talib Lashari RMO-IQ Neuro Psychiatric Centre
- (6) Chambali Institute for Mentally Handicapped Children(Rawalpindi)
Ms. Nuzhat Jalil Administrator
- (7) Fatima Jinnah Special Education Centre (Islamabad)
for Mentally Handicapped Children
Ms. Asia Mughal Principal
- (8) Ibne-Sina Special Education Centre (Islamabad)
Ms. Fouzia Niyyar Vice Principal
- (9) Rahat Ghar (Islamabad)
Dr. Muhammad Aslam Khaki Chairman, Insaaf Welfare Trust
- (10) National Training Centre for Disabled Persons (NTCDP, Islamabad)
Ms. Farkhunda K. Hussain Deputy Director
Ms. Noshaba Bibi Job Placement Officer
- (11) Karachi Vocational Training Centre (KVTC, Karachi)
Dr. Inam Ur Rahman Khan
Ms. Robina Inam
- (12) Rehabilitation Centre for Multiply Handicapped Children
(RCMHC, Karachi)
Ms. Rehana Bagai Assistant Director
- (13) Ex-participants
Mr. Syed Izhar Hussain Secretary/Director, NCSW ('87)
Mr. Qazi Irshad Ahmed Head, Department of Psychiatry
Dow Medical College ('90)

VI. IMPRESSION OF THE TEAM

i. Overall Impressions

Pakistan is a young country with less than 50 years since its independence from India. Thus its welfare and education systems for the mentally disabled is at the primary phase of their development.

With the majority of the population stricken by poverty, even primary education cannot be extensively provided throughout the country. Only 60% of eligible children are reported to be enrolled. A number of schools do not have buildings and classes are held outside. In some rural areas children can be seen using small boards instead of notebooks. Constantly burdened by large defense spending, it is not surprising that the federal government has not been able to spare sufficient budgetary support for measures for the disabled, particularly welfare and education of the mentally retarded.

However, in recent years there were some positive developments in welfare and education for the disabled including the mentally retarded.

Pakistan started to cope with the disabled issue in the 60's, producing especially the Ordinance for the Employment of the Disabled in the International Year for Disabled Persons in 1981. In 1985 the Ministry of Health, Special Education and Social Welfare promulgated the National Policy for the Education and Rehabilitation of the Disabled. The National Policy was revised in 1988 and currently guidelines governmental measures toward the disabled. These policies and legislations have led to the rise of various services for the disabled. Considering the total population of Pakistan, however, still very few are considered to be able to benefit from these services. Budgetary endorsement in social welfare and education can change that situation to considerable extent.

Another propellant in welfare and education for the disabled was former president Haq whose daughter had disability. One of such measures was to separate special education from the jurisdiction of the Ministry of Education and to establish the Department of Social Welfare and Special Education under the Ministry of Health.

The world has found trends in the ideas of Community-Based Rehabilitation (CBR) and integration in schools. Yet in Pakistan neither CBR programs or integration have taken root. WHO survey shows that in Pakistan likelihood of children having disabilities is higher in rural areas than in cities. Since most of services are provided only in cities, it is necessary to establish CBR programs appropriate for rural conditions in this country, while accumulating information on similar activities in other developed countries.

Setting up special classes in normal schools is a common way to promote integration. In Pakistan experimental implementation is reported in Sindh. We consider this one of the important special education measures to be disseminated in the country. However, special classes should come under supervision of the Ministry of Education whereas, at this moment, special education is out of its jurisdiction, which can hinder the implementation process. It will be necessary to have close collaboration from the Ministry of Special Education & Social Welfare and the Ministry of Education.

As for the severely retarded, for whom special classes are ineffective, it is desirable to materialize as soon as possible plans to build special schools which are drafted by federal and provincial governments as well as the private sector.

Although there are not enough vocational training centres (public or private) for the mentally retarded, existent centres have satisfactory activities. Along with the enactment of the Ordinance for the Employment of the Disabled, favorable development can be expected as to the employment of the mildly retarded by private enterprises.

Pre-school education, especially early intervention starting from the birth age is something which awaits future consideration.

Very active involvement of NGOs deserves to be mentioned in running special schools for the mentally retarded, vocational training centres and residential facilities for the severely retarded. We hope to see further development of these private schools or institutions.

Federal and provincial governments are suggested to establish more of public special schools for the mentally retarded, vocational training centres or

residential facilities, and to strengthen their support of NGOs in such forms as financial help, provision of teaching materials, advice to their curriculums and instructing methods, staff training, etc.

ii. Interviews with Ex-Participants

There are only 5 ex-participants of this course from Pakistan. Unfortunately we were able to meet only two of them with one out of the country and two residing in remote places. We had opportunities to talk to Mr. Syed Izhar Hussain and Mr. Qazi Irshad Ahmed.

Mr. Syed Izhar Hussain, Administrator of the Chambali Institute when he participated in '87, is now currently playing the significant role in promotion of welfare for the disabled as Secretary/Director of the National Council of Social Welfare under the Ministry of Special Education & Social Welfare. It can be said that he is in an ideal position to utilize his training experience in Japan.

Dr. Qazi Irshad Ahmed, the Head of Psychiatry Department of Dow Medical College, is one of the founders of the private Karachi Vocational Centre for the Mentally Retarded and currently preparing eagerly to establish an association for autistic children.

Ms. Abida Shaikh, a participant in '93, is engaged in special education of the mentally retarded as a senior teacher under the Ministry of Special Education & Social Welfare. In a brief telephone conversation, she expressed her intention to submit proposals for setting up special classes and sheltered workshops, both of which are considered very effective in this country.

iii. Japan - Pakistan Cooperation

As far as this particular group training course in Mental Retardation is concerned, both ex-participants we met are role-models for future participants. Since the number of participants is limited to only one from each country, and since this course covers wide range of topics concerning welfare and education of the mentally retarded, applicants should be those who are in a position to exercise overall influence in initiating new programs or disseminating new ideas. Considering the role of NGOs in welfare and education for the disabled in

Pakistan, their leaders are mostly appropriate for application along with federal or provincial government officials in charge of social welfare or special education for the mentally retarded.

At the same time, it is suggested to integrate other JICA schemes, especially expert dispatching programmes including Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV), over which Japan and Pakistan reached agreement two years ago, to enhance activities of various institutions or to promote CBR in rural areas. It would be very much effective if Japanese experts collaborate with Pakistani professionals while some of those Pakistani staff get chances to receive training in Japan. This way ex-participants would have opportunities to review and discuss what they have absorbed with Japanese experts assigned.

Finally we would like to express our heartfelt gratitude to all the respective authorities concerned, their superiors and our dear ex-participants for their kind cooperation, assistance and hospitality. We could not have carried out this work in the short time given to us if it had not been for tremendous help rendered by those who are concerned.

Thank you very much. どうも有難うございました。

Bangkok, February 23, 1994

Dear Sir

It is my great pleasure to submit the Summary Report of the Follow-Up Team for Ex-Participants of the Group Training Courses in Mental Retardation.

The Team, which was dispatched by the Japan International Cooperation Agency as a part of its technical follow-up program for ex-participants, and consists of three members as mentioned in the report, arrived in Thailand on February 19, 1994.

Through the visit of this time, we could obtain many valuable comments and suggestions about the abovementioned group training course from the competent authorities concerned and also from the ex-participants and other people around them. We are quite sure that the information we acquired should be greatly useful for the purpose of improving the course and also the entire technical cooperation programme of JICA.

Finally I would like to express my heartiest appreciation for your warm hospitality and kind cooperation extended to us during our stay in your country.

Sincerely,

Kaoru Yamaguchi
Team Leader

SUMMARY REPORT

BY

THE FOLLOW-UP TEAM FOR THE EX-PARTICIPANTS
OF THE GROUP TRAINING COURSE
IN
MENTAL RETARDATION

February 1994

Japan International Cooperation Agency

INDEX

- I. OBJECTIVE
- II. PERIOD
- III. MEMBERS
- IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM
- V. PERSONNEL IN THAILAND WHOM THE TEAM MET
- VI. IMPRESSION OF THE TEAM

I. OBJECTIVE

Environment surrounding the physically and mentally handicapped is heavily influenced by cultural, social, and economical aspects of a country, which makes it difficult to design the most appropriate form of cooperation from Japan, where aforementioned factors differ considerably, to alleviate particular difficulties faced by the disabled themselves and people around them.

Ever since its inauguration in 1980, the group training course in Mental Retardation has been a subject of discussion as to the effectiveness and applicability of its curriculum. The discussion has been unable to produce a clear-cut result since there is a lack of comprehension regarding what is really required in recipient countries.

In order to have a better recognition of reality involving the mentally retarded (or the physically and mentally handicapped as a whole) and thus to be able to draw more appropriate plan for training of the relevant personnel, Japan International Cooperation Agency dispatches a follow-up mission to Sri Lanka, Pakistan and Thailand.

II. PERIOD

From February 7 to 24, 1994 (Thailand Feb 19 to 24)

III. MEMBERS

- (1) Prof. Kaoru Yamaguchi (Team Leader)
President
Japan League for the Mentally Retarded
- (2) Kanji Watanabe
Head of the Department of Social Welfare

Institute for Developmental Research

Aichi Prefectural Colony

- Welfare Center for Persons with Developmental Disabilities

(3) Takehiro Hozumi (Planning & Coordination)

Training Officer

First Training Division

Tokyo International Centre

Japan International Cooperation Agency

IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

- Feb. 19 Arr. Bangkok
- 21 Courtesy Call - JICA Thailand Office
Meeting/Observation - Rajabhat Institute of Suandisit
Meeting/Observation - Institute of Mental Health
- 22 Meeting/Observation - Rajanukul Hospital
Observation - Bangpoon Center
- 23 Observation - Punyawuthikorn School
Luncheon hosted by the team leader
Courtesy Call - Department of Technical and
Economic Cooperation
- 24 Dep. Bangkok

V. PERSONNEL IN THAILAND WITH WHOM THE TEAM MET

- (1) Department of Technical and Economic Cooperation
Mr. Nipon Sirivat Chief of Japan Sub-Division,
External Cooperation Division I
Ms. Jitkasem Tantasiri Chief of Training Analysis Sub-
Division, Division of Planning
- (2) Institute of Mental Health

- | | | |
|-----|------------------------------|---------------------------|
| | Dr. Surajit Suvanashiep | Chief Medical Officer |
| (3) | Rajanukul Hospital | |
| | Dr. Kalaya Sutrabutr | Deputy Director |
| | Ms. Kullaya Koswan | (Ex-participant, '86-'87) |
| | Ms. Sriwanphen Chinawongse | (Ex-participant, '88) |
| | Ms. Puttiporn Phurisat | (Ex-participant, '90) |
| | Ms. Panida Ratanapairoj | (Ex-participant, '93) |
| (4) | Rajabhat Institute Suandasit | |
| | Dr. Thong Runchareon | Rector |
| | Ms. Suwimon Udom-Piriyasak | (Ex-participant, '87) |
| (5) | Punyawuthikorn School | |
| | Dr. Kanchana Kosolpisitkul | Director |
| (6) | Bangpoon Center | |
| | Mr. Samrit Dangponetong | (Ex-participant, '82-'83) |

VI. IMPRESSION OF THE TEAM

i. Overall Impressions

Looking at the skyscrapers and continuing rush of construction in Bangkok, it is hard to believe it is a capital of a developing country. On the other hand, economic gap between the urban areas and the rural areas has widened, and problems produced as consequences of the rapid economic growth are apparent. It is our general impression that the measures for welfare and education of disabled persons including people with MR are still lagging behind.

So far medical, welfare and educational services for people with MR have been provided under the auspices of Rajanukul Hospital. It is a comprehensive institution designed not only for medical treatment but also facility for early intervention, pre-schooling, and vocational training. Although it has recently shown a shift toward community care by establishing a vocational training center or an early intervention center outside the hospital ground, the fact that Rajanukul Hospital has functioned almost as the sole body for the implementation of medical, welfare, education and labor policies for people with

MR is now one of the factors that hinders the promotion of CBR and Integration.

There do exist activities in the private sector. In such facilities as a special school for children with MR subsidized by the Royal fund, or a vocational training center, even better activities than those at national facilities can be observed. However, the number of such facilities is quite limited.

ii. Interviews with Ex-Participants

Thailand has sent more participants than any other countries with 15 ex-participants. Most of them are nurses and teachers of Rajanukul Hospital. The only male ex-participant from the Hospital, Mr. Samrit Dangponetong, is now active as the person in charge of Bangpoon Vocational Center, which is affiliated to the Hospital.

Among the nurses, Ms. Kullaya Koswan is now enrolled at a master course in special education to take on the leading role.

At Rajabhat Institute, a staff-training college, we were impressed to see Ms. Suwimon Udom-Piriyasak as one of the chief advisers of an early intervention programme.

Among the ex-participants, we were not able to see those who work in Chiang Mai. However we were pleased to hear that Ms. Sunanta Tiangtrong is now responsible for a department of special education at local university.

iii. Future Expectations

a. Financial Support for Welfare Programmes

In the total amount of annual national budgets from 1987 to 1991, budget for the Department of Social Welfare has a meagre share of approximately 0.3%. We hope that sufficient budgetary consideration will be given in accordance with the Rehabilitation of Disabled Persons Act, enacted in 1991.

b. Services in Remote Areas

We were reported about the establishment of a branch of Rajanukul Hospital in Chiang Mai, which is to function as a service center for remote villages based on CBR project. Considering that it is often reported that people

with disabilities in rural areas do not have access to any services, we hope to see the materialization of this project.

We further hope that, in process of project implementation, cooperative tie will be established with the Daughters of Charity group, which is active in the region. It can be a model for cooperation between the government and a non-government organization.

c. Parental Organization

We had a report about an organization of parents of children with MR at the special school of Rajanukul Hospital. We hope that the parents of the organization will expand their network to regional and national levels.

Finally we would like to express our heartfelt gratitude to all the respective authorities concerned, their superiors and our dear ex-participants for their kind cooperation, assistance and hospitality. We could not have carried out this work in the short time given to us if it had not been for tremendous help rendered by those who are concerned.

Thank you very much. どうも有難うございました。

JICA